

『木村君の事 病気で入退院のため市大探査会・探検部OB会に参加できなかった会員のこと』

昨日初めて知って、驚きました。彼とは、大学時代 現OB会長の宮崎君と同じクラスで、3人は探査会のみならず、生物部にも所属して色々なときに行動を共にして生活してきました。また、一軒家を共同で借り受け食事当番なども決め自炊していました。

大学の壁一つ越えると共同宿泊場所だったので、同級生や後輩たちも学校帰りに 気軽に立ち寄り、探査会・探検部の大学祭の準備、勉強会などもしていました。その後、共同生活者も色々変化してきた記憶があります。探査会・探検部の活動と生物部も共にしたこともあって学生時代はとても濃い絆で結ばれていました。彼の家に泊ったこともありました。

木村君は、人好きで気軽に誰とでも付き合い後輩たちからも慕われていました。私は寡黙で、人好きあいは下手だったので、彼の行動に感心させられていました。卒業後は名古屋の水道局に勤務して卒論で行った珪藻の研究をしていて、福嶋先生との共著で、珪藻図鑑を出版しました。詳しくは大野さんのメールのとおりです。

11年前の事、突然木村君より、遺書が届きました。読んでみると肝硬変が悪化して、医者からもう命がいくばくも無いので、ということで関係者に遺書を書いたとのことでした。

びっくりして、同じクラスの宮崎君などと相談して最後のクラス会を開こうと、今回は私が計画して、木村君と連絡を取って木村宅にて開催することにしました。その時、探査会で私たちの相談役であった松橋さんも加わりたいとの希望で クラス会+松橋さんと名古屋の自宅を訪問して歓談を行いました。病気柄、食事の制限は厳しく、奥さんの絢子さんの働きが絶大だと強く思いました。クラス会后、別の医者から良い薬があるのでといわれ、希望がでてきた旨の知らせを受け、軽い旅行もできるという知らせで、ほっとしていました。それから11年間、便りのないのは良い知らせと思っていたのですが、突然の訃報でびっくりしてしまいました。

奥さんに連絡をして、様子を聞きました。詳しい病状は省きますが、40台後半からB型肝硬変を患い入退院を繰り返していました。3年前から、肝機能が悪化して入院が多くなったとのこと。本人は、次の仕事をしようと思っていたとのこと。3月26日午後4時過ぎ急変し亡くなりました。

彼の残した文献、資料、顕微鏡、遠心分離機など、知人を通して、筑波の科学博物館に寄贈した。とのこと。

死のどん底—彼からの遺書から11年間 医学の進歩と共に付き添い病气と闘ってきた彼の妻である絢子さん—横浜市大生物科卒 私たちの後輩でもあります。これからの生き方を見つけない。と言っていました。感謝と共に彼女の今後の歩みに幸多かれと祈っています。謹んで、木村君のご冥福をお祈りいたします。

河合 武臣 (2021年4月19日記)